

# MIA 文化探訪

## 富士塚登頂と能楽鑑賞

(参加者 MIA7名、ゲスト14名<内、外国人5名> 合計21名)

2026年5月17日

風薫る五月の快晴の日曜日、JR千駄ヶ谷駅に集まったMIA文探一行は、鳩森八幡神宮にある富士塚を目指しました。富士塚は江戸時代、富士登山がブームとなったとき、女人禁制や老幼など登りたくても登れない人大勢いたので、富士山から溶岩を運んできて積み上げミニ富士山を作りました。高さは6mと言いながらパワースポットを正確に盛り込んだ、ありがたいものとなっています。





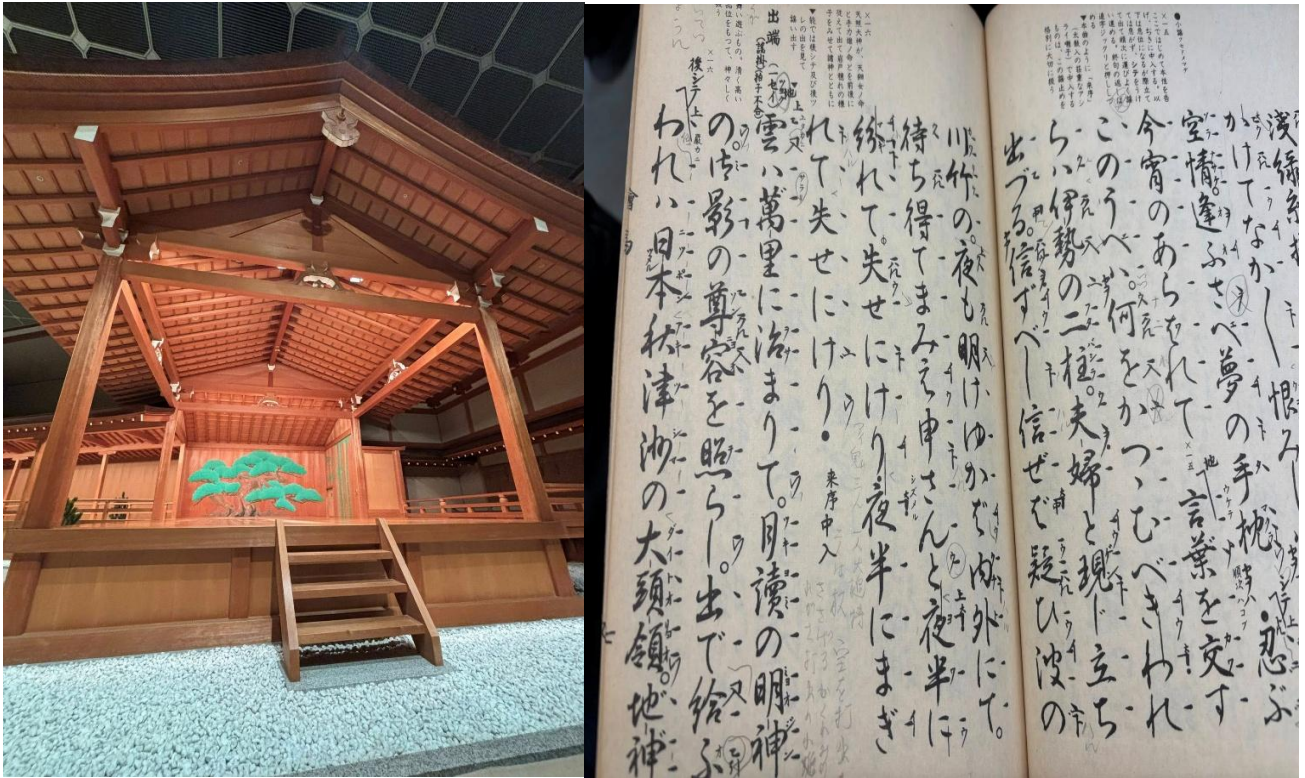
皆さん無事難所を乗り越え登頂を終えて、本殿前で記念撮影です。

続いて能楽鑑賞です。皆さん富士塚登頂の疲れも見せず、10分ほどで国立能楽堂に到着しました。

正面玄関でパチリ。



この日は、京都の観世流の片山九郎右衛門社中の味方玄師主宰の青嶂会の発表会です。



お素人さんの発表会では珍しく、江戸幕府の式楽の形式で、一日五番演じる「五番立(ごばんだて)」で行うと言うことです。普通なら1番 1.5時間として全体で7から8時間かかることとなります。

能の演目は、シテ(主人公)が「神、男、女、狂、鬼(しんなんによきょうき)」の五つのタイプに分かれます。それぞれ①「脇能物(わきのうもの)」②「修羅物(しゅらもの)」③「鬘物(かづらもの)」④「狂物(くるいもの)／雑物(ざつもの)」⑤「切能物(きりのうもの)」と決まっています。

今日は、①は「絵馬」(天照大神の天の岩戸のお話)②は「頼政」(源頼政のクーデターのお話)③「杜若」(花の精と稀代のプレイボーイ在原業平のお話)④「隅田川」(人買に子を拐かされた母親のお話)⑤「石橋」(寂昭法師が中国清涼山に行き獅子に出会うお話)と盛り沢山。

それぞれシテのみ素人でワキ方、囃子方、狂言方には、人間国宝、無形重文資格保持者など超一流のプロが支えます。大変見ごたえのあるお能ばかりでした。

能は完成して650年続いていると言われます。昔の言葉で演じられますので日本人でも理解が難しいのですが、かえって言葉の分からない外国の方が感動し、また観たいと仰っしゃる方が多いように思います。

富士塚にお能、今日は皆さん日本文化にどっぷり浸り、満足の日でした。